
「夏まっさかりにはまだ遠い」

三毛猫

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

「夏まつさかりにはまだ遠い」

【Nコード】

N0934BA

【作者名】

三毛猫

【あらすじ】

あまりの暑さに朦朧としていたら、変な物が肩で囁いていた。

【夏まつさかり】 【橋】 【夏服の人】のお題で書かれた掌編です。

以前texpoにて公開していました。現在pixivにても「三毛猫の三題話」の一編として公開中です。

「……あつついなー」

まわりが水だらけの橋の上なら、ちよつとは涼しい風が吹くんじやないだろうかと思つたのに、海からの潮を含んだ風は生あつたかくて気持ち悪かつた。髪がなんだかべとべとする。

衣替えはとうに過ぎ、道行く人も夏服の人ばかり。わたしも五月のうちに早々と半袖に変えてはいたのだが、この暑さに流れる汗はとどまる所をしらない。溶けてしまいそうだ。

あー……もう、全部脱ぎ捨てて、ここからザブンと川に飛びこんじやいたい気分。

回らない頭でぼんやりそんなことを考えていると、不意に耳元で小さな声がした。

「いいじゃん、いいじゃん、全部脱いで飛び込んだんじやいなヨ！」見ると私の右肩に、全身真っ黒な、天使の姿をした小さい女の子が乗っていた。

「いけません。往来で服を脱ぐなんてはしたない！」反対側から聞こえる声に左肩を見ると、全身真っ白な、悪魔の姿をした小さな女の子が乗っていた。

なんだかマンガやアニメでたまに見かける、天使と悪魔の心の声っぽい感じだなーと思つたけれど、黒い天使に白い悪魔とかいったいどっちが良いモノでどっちが悪いモノなのか分からない。……つていうか、どっちもまともじゃない気がする。

「んじゃ服着たまんまでいいからサ、あつついし、とびこもつヨ！きつと涼しくなるぜ！」

「んー、まあ、脱がないのなら、川に飛び込んでみるのも涼しそうですよさげですわね？」

左右からサラウンドで「んじゃ、川にれつつごー！」「とか言われたので、わたしは無言で両肩の変な生き物をつまんで川に放り

投げた。きつと、お望みどおり、涼しくなっただろう。

悲鳴を上げながら海に向かって流れていく二匹に小さく手を振りながら小さくため息を吐く。

夏まっさかりにはまだ遠い。なのに、この暑さはどうしたものだろう。

(後書き)

内容的にはあまりの暑さに、非日常にかまってる余裕がない、というところでしょうか。天使と悪魔、時と場所選べって感じですね。天使と悪魔自体には特に意味はありません。主人公の心の声を表したものではありません。「魔が差す」の魔というか、特に理由も無くふらりと電車に飛び込みたくなるような感じというか。そんなものにかまってられないほど「あつついなー」というだけのお話です。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0934ba/>

「夏まっさかりにはまだ遠い」

2012年1月2日02時51分発行